

「教職概論」の講義についての理解と教職に対する意識の研究 ～栄養教諭免許取得コースにおける「教職概論」の取組を通じて～

Awareness and Understanding in the Lectures Conducted for “Introduction to Education” : An Analysis of the Teaching Profession Initiative in the Nutrition Teacher License Curriculum

(2023年3月31日受理)

森寺 勝之 岸 誠一
Katsuyuki Moridera Seiichi Kishi

Key words : 教職概論, 教職の意義等に関する科目, 栄養教諭免許

要 旨

本研究は、一般大学における教職課程で履修する学生の意欲を高めたり、指導力向上を目指す取り組みとその検証が多く実施されている研究を参考にしつつ、一般大学において、教職課程の入門講義として位置付けられている「教職概論(教職の意義等に関する科目)」の講義の理解状況から、学生の教職に対する意識について質問紙調査を行うことにより、講義が教職課程の入門講義になりえたか検討した。

その結果、1年の栄養教諭免許取得コース学生については、多くの不安や課題があるものの、教職課程の入門講義として「教職概論」において、実際の栄養教諭の指導場面も具体的にとり入れ学修させていくことが、栄養教諭免許取得の意欲や学修意欲の向上につながる事が分かった。

1. はじめに

令和3年度文部科学省発表によると、小学校教諭採用試験においては過去最高の12.5倍であった平成12年度に対し、令和3年度においては採用者数が5倍近くに増え、採用倍率が2.6倍まで低下している。

こうした教員不足の中、栄養教諭の競争率(採用倍率)は、8.0倍で、前年度の8.1倍から多少減少したものの採用者数は201人で、前年度に比較して6人減少となり受験者数は1,616人で、前年度に比較して62人減少と状況は変わっておらず、相変わらず狭き門となっている。

こうした中、本大学では管理栄養士免許取得コースと並行して、この栄養教諭免許取得コースを開講してきているが、教職へのあこがれや夢はあるものの、学修の難しさや濃密さから、栄養教諭免許取得をはじめから諦めたり、途中で免許取得コースをリタイヤする学生が多く

見られる。

2. 研究の目的

本研究は、一般大学における教職課程で履修する学生の意欲を高めたり、指導力向上を目指す取り組みとその検証が多く実施されている研究を参考にしつつ、一般大学において、教職課程の入門講義として位置付けられている「教職概論(教職の意義等に関する科目)」の講義の理解状況から、学生の教職に対する意識について質問紙調査を行うことにより、講義が教職課程の入門講義になりえたか検討した。

3. 研究の方法

本研究では、筆者が勤務する大学の「栄養教諭免許取得コース」の第1学年学生を対象に、「教職選択の理由」

や「学修に対する不安」,「現教職の理解」等について質問紙調査を実施する。その後,次のような学修をさせ,学生の認知の変化を調査する。

3.1. 15回の講義のテーマと主な内容

回	テーマと主な内容
1	「子どもの生活と学校」 ・子どもの一日,児童虐待,不登校,いじめ
2	「学習指導」 ・レディネス,発達課題,動機づけ,学習形態,学習評価
3	「生徒指導・進路指導」 ・生徒指導のねらい,機能,進路指導,キャリア教育
4	「教育相談」 ・教育相談の目的,機会づくり,教育相談での役割
5	「学級経営」 ・学級の荒れ,学級崩壊,助教授法,日本の学校制度,チーム学校
6	「教師に何を求めてきたか,いま何が求められているか」 ・近代学校制度,教育基本法,学校給食週間における栄養教諭の仕事(写真)
7	「子どもと教師—学ぶことと教えること」 ・教育実践,授業研究 ・文科省「食に関する指導資料」から栄養教諭の職務や位置づけ,ベテラン栄養教諭(動画)
8	「教員養成の制度」 ・戦後の教育制度,教員養成,開放免許制度, ・県内栄養教諭の一日の仕事(写真)
9	「教職課程の仕組みと内容」 ・教職員免許法,免許の区分・種類,栄養教諭免許と法的職務
10	「教員の採用」 ・教育公務員特例法 ・栄養教諭設置の基準(文科省栄養教諭動画)
11	「教員の研修」 ・教育公務員の研修(栄養教諭の研修)
12	「栄養教諭の実際の仕事」 ・地場産物活用の献立づくり,給食時間の指導
13	「教員の地位と身分」「教員の待遇と勤務条件」 ・教師に対する倫理性,教員の給与,休日休暇,勤務時間,栄養教諭の異動
14	「学校制度」 ・法律に定める学校,学校の目標,学校の形態 ・学校給食の意義(動画)
15	「学校管理・運営体制」 ・学校の職員,校務分掌,主事・主任,食育関係校務分掌や会議等

3.2. 栄養教諭の職務等についての学修

3.2.1. 栄養教諭の職務に関する学修

平成31年3月第二次改訂「食に関する指導の手引」から,栄養教諭制度創設の経緯や配置,職務について学修させる。特に,教育に関する資質と栄養に関する専門性を生かして,教職員や家庭・地域との連携を図りながら,「食に関する指導」と「学校給食の管理」を一体のものとして行うことにより,教育上の高い相乗効果をもたらすことを理解させる。

3.2.2. 栄養教諭の実際の学校での職務に関する学修

栄養教諭の職務については,紙媒体だけではなかなか理解が進まないことから,動画や写真等を使った学修が不可欠と考えた。

そこで,茨城県のベテラン栄養教諭や近年岡山市に採用された栄養教諭の一日のスケジュール,業務の様子を動画や写真,資料から読み取るとともに,給食調理時,給食時間等での栄養教諭の仕事や毎月の献立作成時の他校の栄養教諭との連携風景を視聴させ,栄養教諭の業務について具体的な理解を図る。

また,給食をテーマにしたテレビドラマの一部を視聴させ,「給食のよさ」について話し合い,学校給食の意義についても理解を深める。

3.2.3. 「旬の食材」教材づくり

令和3年農林通産省「第4次食育推進基本計画」等においても,栄養教諭による地場産物に係る食に関する指導の取組を増やすとともに地場産物を学校給食に使用する割合を増やすことが栄養教諭に期待されている。

そこで,自分の出身地の「旬の地元食材」について調べさせ,地元食材について,給食時間のショートの指導資料を作成させ地場産物への理解を深めさせるとともに,実践的指導力の向上を図る。

4. 調査の結果

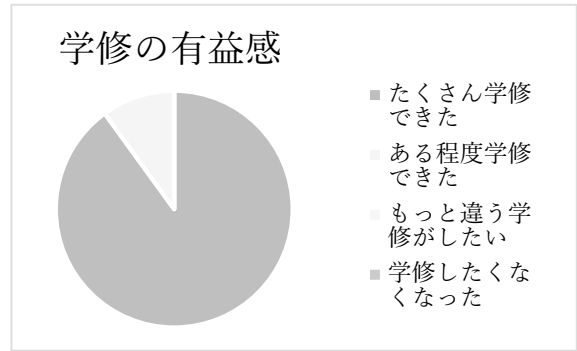
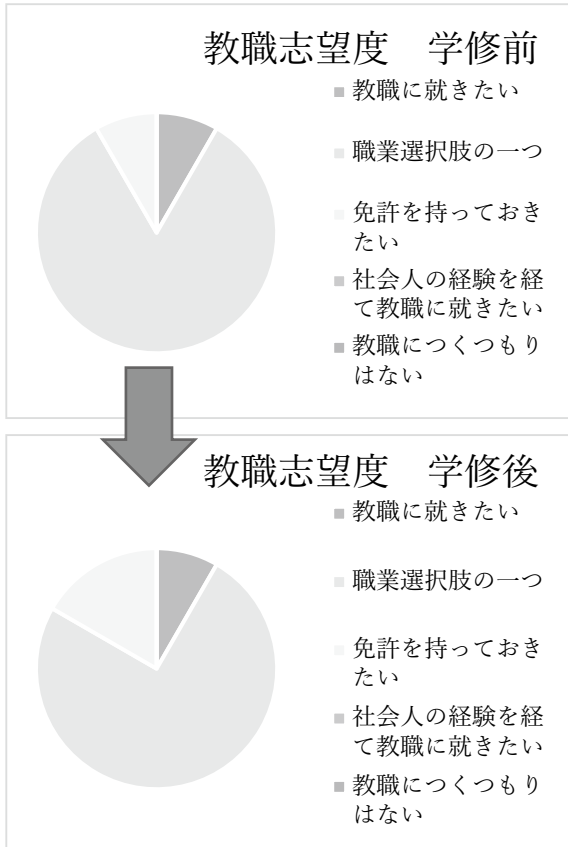
4.1. 教職志望度

講義のはじめと終わりに,教師栄養コース選択の理由について調べた。

学修の前後であまり変化はなく,教職を一つの将来の

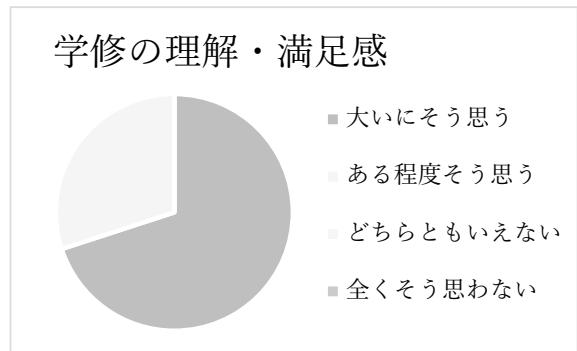
職業として、考え、受講している。

を費やしたが、肯定的な意見がおおく見られた。



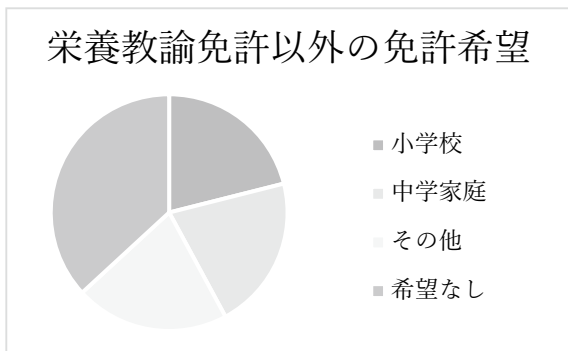
4. 4. 学修の理解・満足感

学修の内容が多かった分、理解にやや不安を持つ学生もあるのか、今後の指導の余地がうかがえる。



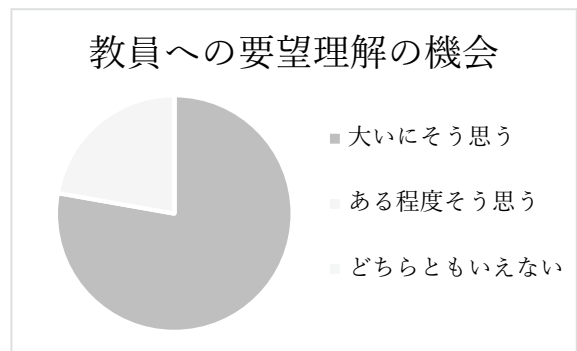
4. 2. 希望する校種

栄養教諭免許取得コースであるが将来、ぜひとも教職に就きたい学生が半数程度在籍していて、複数免許を取得したい様子が分かった。



4. 5. 教員に求められているもの

いま教員に何が求められているか考える機会になったようである。



4. 3. 学修に対する有益感

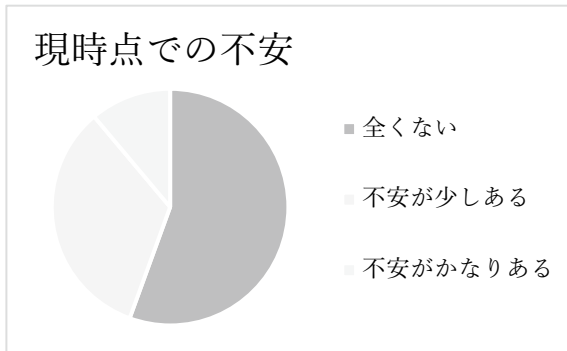
15回の講義の内容は、教職課程の入門の講義であることから、多岐にわたる内容であり、さらに、栄養教諭としての職務や実践活動も視野に入れた学修で多くの時間

4. 6. 学修後の教職に対する不安

教職課程のスタートがこの「教職概論」であることから、多くの不安を抱えて受講している学生の実態が分か

る。

学生が現時点であげる不安としては、「教員採用試験の問題が、解けるのだろうか」や「児童生徒の前での指導に自信がない」など、今後の学修で減少していく課題と考えられる。



5. 今後の課題

(1) 講義内容について

一般大学において、教職課程の入門講義として位置付けられている「教職概論（教職の意義等に関する科目）」の講義について、教育制度や教育の歴史、教育法規などについて、教師の役割を意識できるよう、具体的な業務まで提示した学修をすることにより、より学修についての理解が深まったと思われる。

特に、地元食材を活用した給食時のショート食材の紹介は、どの学生も主体的に取り組む様子が多く見られた。

また、講義の途中で視聴した数本の「栄養教諭の仕事」は、モデルとなる多くの先輩が、生き生きと働く姿が表現されていて、学生の学修へのやる気を倍増させるエネルギーになったと思われる。

(2) 進路選択について

教員免許法施行規則第6条に「教職の意義等に関する科目」に含めることが必要な事項として、「教職の意義及び教員の役割」「教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）」「進路選択に資する各種の機会の提供等」とある。本講義ではこれをふまえ、学習指導要領の改訂や教育制度改革、カリキュラムマネジメントや社会に開かれた教育課程、食育指導や地産地消などの課題も

取扱い、教職を進路として選択することに資するよう努めた。

開放制の原則による教員養成を行う一般大学においては、入学の段階で元々志望する学問分野があり、教職は進路の第一希望ではなく、選択肢の一つとして考える学生がほとんどで、実際に教職以外の職につくことが一般的となっている。

本研究において、講義スタート時の学生の教職志望の度合いを調査した結果からもわかるように、「職業選択のひとつである」と考える学生が多く、免許取得コースをリタイヤすることなく、学修を続けていくようであれば、教職のスタートでは、進路選択に資することはできたのではなかろうかと考える。

今後も、栄養教諭免許取得コースの学生たちが、教職への夢や希望をもって学修が続けられるよう、講義内容の精選と共に、指導技術の向上に取り組むとともに、免許取得から教員採用となるよう、学修の質の向上を図りたい。

参考文献

- ・中瀬浩一（2015）「教職概論」の授業理解と教職に対する意識の検討 同志社大学教職課程年報
- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説 総則編」平成29年3月 参照
- ・文部科学省「食に関する指導の手引き 第2次改訂版」平成31年3月 参照
- ・農林水産省「第4次食育推進基本計画」令和3年3月 参照